

平成29年度 教育論文

豊かなコミュニケーション力を 身に付ける児童の育成

～ どの子も楽しく「分かる・できる」授業のUDを通して ～



学校名	御船町立小坂小学校
職 氏名	教諭 木村真紀子
教科・領域	英語科

はじめに

本校は、昨年度から文部科学省指定を受け、英語科の学習を年間70時間行うこととなった。昨年までの『授業のUD（ユニバーサルデザイン）』の取組の土台とし、昨年度の取組をもとに『英語科』の授業づくりに取り組んできた。本年度は、『音声に十分に慣れ親しむ活動』、『児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする活動の場』を年度当初の授業づくりの基本として取り組んできた。

まだまだ、研究半ばで目標まで到達できていない部分もあるが、御指導・御助言を賜りたい。

目次

はじめに
目次

I 研究の概要

- | | | |
|---|---------|-----|
| 1 | 研究主題 | 1 |
| 2 | 主題設定の理由 | 1～2 |
| 3 | 研究主題の分析 | 3 |

II 研究の構想

- | | | |
|---|--------|---|
| 1 | 研究の仮説 | 3 |
| 2 | 研究の構想図 | 4 |

III 研究の内容

- | | | |
|---|----------------|-----|
| 1 | 単元を通じた授業づくり | 5～6 |
| 2 | コミュニケーション活動の充実 | 7～8 |

IV 研究の実際

- | | | |
|---|------------------------------------|-------|
| 1 | 5月の実践[Let's play cards] | 9～11 |
| 2 | 9月の実践[Do you have a pen?] | 12～14 |
| 3 | 11月の実践[What do you want?] | 15～17 |

V 研究のまとめ

- | | | |
|---|----------|-------|
| 1 | 成果 | 18～19 |
| 2 | 課題と今後の展望 | 20 |

おわりに

参考文献

I 研究の概要

1 研究主題

豊かなコミュニケーション力を 身に付ける児童の育成

～ どの子どもも楽しく「分かる・できる」授業のUDを通して ～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

社会の急速なグローバル化の進展の中で、英語力の一層の充実は我が国にとって極めて重要な問題である。これからは、異文化理解や異文化コミュニケーションはますます重要になる。その際に、国際共通語である英語力の向上は日本の将来にとって不可欠であり、今後の英語教育改革において、その基礎的・基本的な知識・技能とそれらを活用して主体的に課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することは、児童生徒の将来的な可能性の広がりのために欠かせないものとする。社会のグローバル化の進展への対応は、英語さえ習得すればよいということではない。我が国の歴史・文化等の教養とともに、思考力・判断力・表現力等を備えることにより、情報や考えなどを積極的に発信し、豊かなコミュニケーション力を身に付け、楽しく「分かる・できる」授業づくりに取り組むことは、すべての児童の「確かな学力」を培うことにつながるものとする。

(2) 学校教育目標から

本校の教育目標は、「豊かな心と確かな学力を身に付けた心身たくましく生きる児童の育成」である。研究主題が目指す「授業のUD（ユニバーサルデザイン）」は、一人一人の特性を踏まえた、どの子どもも楽しく授業に参加し、「分かった」「できた」と感じるための授業づくりを目指す考え方である。学力向上とともに、学び合いの中で互いの認め合う学級基盤作りを目指すものであり、学校教育目標を具現化するものである。

(3) 児童の実態から

本校は、昨年度から文部科学省「教育課程特例校(英語教育)」の指定を受け、「授業のU

D」に基づいた実践的な英語力の育成に取り組むこととなった。教育課程を編成して、4年生は「英語科」として年間70時間（週2回）の授業に取り組むことになっている。本学級は、自らコミュニケーションを図ろうとする児童は多いが個人差がある。また、リアクションなどにワンパターン化されている。相手意識を持った生きたコミュニケーションが図れるような児童を育成することを目標とし、上記の主題を設定した。

3 研究主題の分析

(1) 「豊かなコミュニケーション」とは

「豊かなコミュニケーション」とは、自発的に周りに関わり合いながら、自分の思いを伝えたり、相手の思いを理解し温かく受け入れたりしようとする態度と捉える。児童の実態を見ると、自信を持って会話をしたり、自分が知っている英語表現を意欲的に話したりする姿が多い。また、他の児童やALT等と関わる活動を楽しんでいる。しかし、そのようなコミュニケーション能力の高まりを児童自身があまり感じていない。そのため、一人になったり大勢の前に立ったりするとうまく話せない、授業で身に付けたコミュニケーション能力があまり普段の場に生かされていないという課題がある。

また、小学校学習指導要領解説『外国語活動編』において、目標は、次のように記されている。

外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

また、内容は次のように設定されている。

1 外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができるよう、次の事項について指導する。

- (1) 外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること。
- (2) 積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。
- (3) 言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。

(1)の「コミュニケーションを図る楽しさを体験すること。」とは、ただ単に楽しい活動をするというだけでなく、楽しく聞いたり話したりという活動を繰り返し行うことで、自然と単語や表現が聞き取れたり伝えたりすることができるようになること、さらに友達のことを知りたい、自分のことを尋ねたいとコミュニケーションを図る楽しさを味わ

うことと考える。

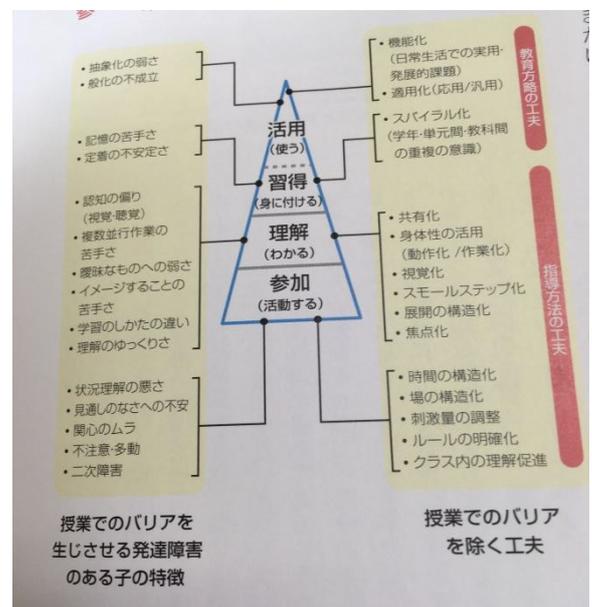
(2)の「積極的に外国語を聞いたり、話したりすること。」とは、新しい単語や表現は、まず繰り返し『聞く』活動を取り入れる。体を使って話したり歌ったりし、カード等のゲームで楽しみながら新しい単語や表現に慣れ親しませる。その後で、『話す』活動を授業に取り入れていきたいと考える。

(3)の「言語を用いてコミュニケーションを図ることの大切さを知ること。」とは、コミュニケーションを図ったことで今まで一緒に過ごしてきた学級の友達の新たな一面を知ることができるようにしたいと考える。

(2)「分かる・できる」授業のUDとは

「授業のユニバーサルデザイン」とは、特別な支援が必要な子を含めて、通常学級の全員の子が、楽しく学び合い『分かる・できる』ように、指導の工夫や個別の配慮をすることである。

昨年度までの取組の成果を踏まえ、「授業のユニバーサルデザイン」のモデル図(右図)に基づいて研究を進める。



授業のユニバーサルデザインのモデル図
(授業のユニバーサルデザイン VOL. 11より)

II 研究の構想

1 研究の仮説

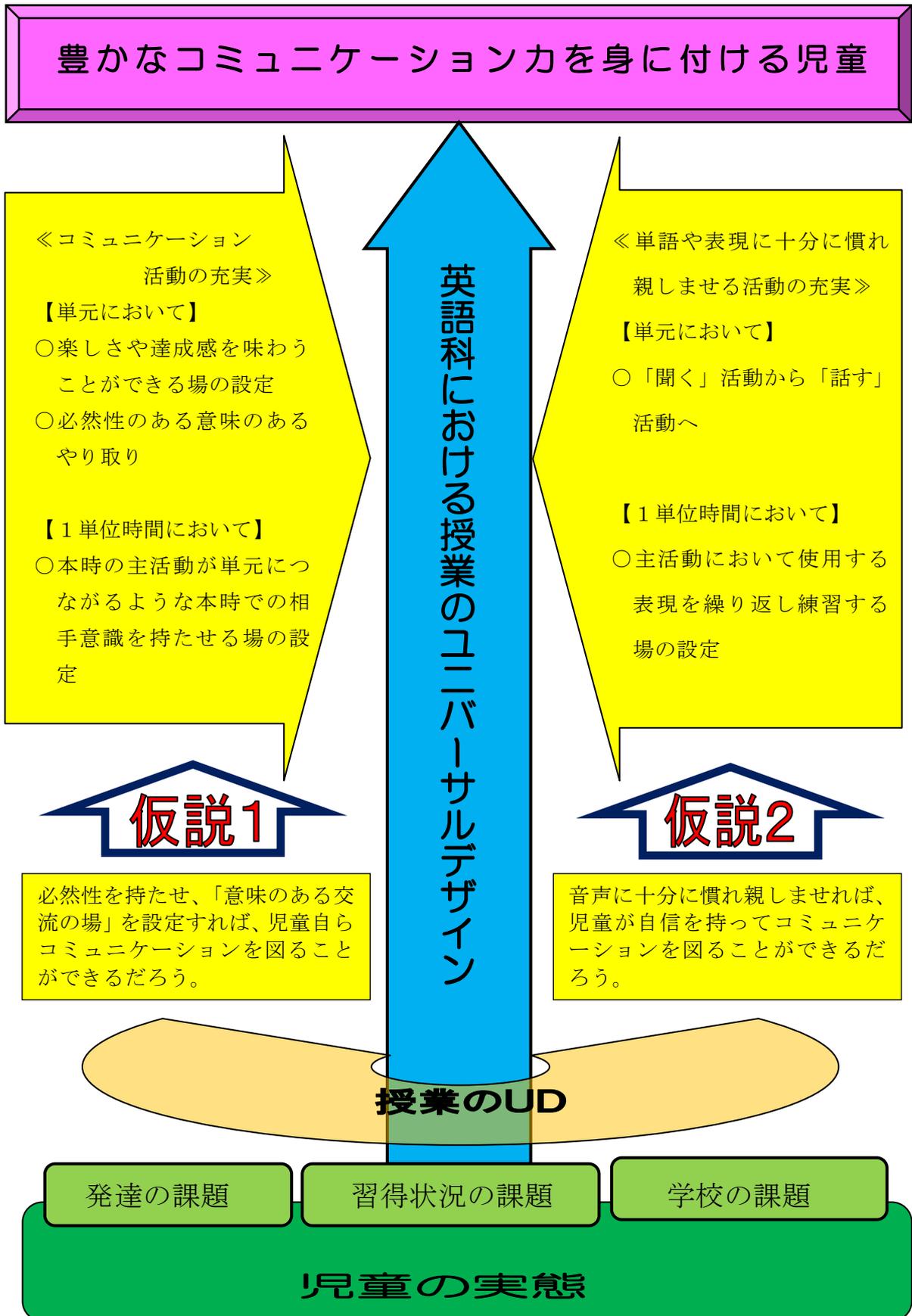
【仮説1】

必然性を持たせ、「意味のある交流の場」を設定すれば、児童自らコミュニケーションを図ることができるだろう。

【仮説2】

音声に十分に慣れ親しませれば、児童が自信を持ってコミュニケーションを図ることができるだろう。

2 研究の構想図



III 研究の内容

1 1 単元を通じた授業づくり

(1) 単元のゴールについて

単元に入る前には、「単元のゴール」を設定した。単元の目標を受けて、児童の実態、目指す児童像（全体・学年部）を踏まえて設定する。その際、系統性、既習事項ではどの表現が扱えるかなど考え、児童がやってみたいと思えるような活動になるよう、担任が児童の実態に応じて設定する。また、児童の単元末の姿を単元の第1時で担任がデモンストレーションし、児童に本単元で身に付ける表現等について関心を持たせられるようにする。

英語科ふりかえりシート

Class () () () No. () 名前 () ()

単元名: **What time is it?**

単元のゴール: **お気に入りの時刻に何をしているのか伝え合おう。**

6月 日	★めあて☆	何時間と聞こう
①楽しく、積極的に学習できましたか。	◎ ○ △	
②今日の学習のめあてが達成できましたか。	◎ ○ △	
③人の話をよく聞いたり、英語を使って話したりすることができましたか。	◎ ○ △	
④くわかったこと、できるようになったこと		



児童の振り返りシート（ワークシート）に単元のゴールを明記し、本時のめあてと照らし合わせられるようにする。

黒板の左上に単元のゴールを貼り、そこに向かうための **Today's GOAL** を授業の始めに提示する。

(2) 単元計画について

計画を作成する上で、誰もが見やすく、活用しやすいものになるようにする。

- ①第1時に単元のゴールを知る活動を入れ、単元末の児童の姿を明確にする。
- ②前半に本単元で身に付けたい単語や表現の音声に十分に慣れ親しませる活動を取り入れる。
- ③後半には話せるようになった表現を用いて自分のことを伝え合う活動を取り入れる。
- ④単元末には、プレゼンテーション等のまとめの活動を行い、単元のゴールを見据えた。
- ⑤取り扱う語彙は児童の使うものとし、単元計画との整合性を確かめる。

単元の目標

単元末の児童の姿を覚えて

単元のゴールを設定する

単元計画

お おさええる

単元のゴールを知る
*単元末の児童の姿を明確に

さ ざいじょうさ

単元の中で身に付けたい単語や表現に十分に慣れ親しませる
*単語から表現に聞く活動から話す活動へ

か かんがえる

コミュニケーション活動の充実
*相手意識を持って積極的に伝え合うようになる場での活動の充実

ま まとめる

プレゼンテーション
まとめ

音声に十分に親しませる活動

話せるようになった表現を用いて自分のことを伝え合う活動

4学年 第7単元計画 What do you want? ほしい物は何か
単元のゴール『わが家のおすすめメニューを紹介しよう』

次	活動のねらい	活動の準備	活動の進行
1	●わが家のおすすめメニューを決めよう。 ○発表のゴールを知る。 ○人気のあるメニューを練習する。 ○インサビュゲームをする。	●メニューの食材を伝えよう。 ○食材（野菜など）の名称を練習する。 ○インサビュゲームをする。 ○持っている食材をゲームをする。	curry and rice, gratin, stew, spaghetti, hamburger, sushi, omelette, fried chicken, pizza Do you like ~? chicken, potato, carrot, egg, fish, noodle, rice, broccoli, cheese, pork...
2	●欲しい物を尋ねよう。 ○欲しい物は何かを尋ねる言い方を練習する。 ○グループでカードゲームをする。 ○自分のメニューに足りないものを買い準備をしよう。 ○店のやりとりのチャンスをしよう。	●欲しい物を尋ねよう。 ○欲しい物は何かを尋ねる言い方を練習する。 ○グループでカードゲームをする。 ○自分のメニューに足りないものを買い準備をしよう。 ○店のやりとりのチャンスをしよう。	【家と味の食材の名称】 What do you want? I want ~.
3	●グループでひびつような食材を買い練習をする。 ○店員とお客のやりとりをチャンスをしよう。 ○店員とお客の会話文を練習する。 ○グループ毎に店を作り、お店役とお客役で必要な食材を買い練習する。	●自分のメニューとその中の食材の言い方を練習しよう。 ○自分のメニューの言い方を覚える。 ○メニューの中に入っている食材の類目の仕方を考える。 ○グループで練習する。	My original menu is ~. I want ~. How many? I'm sorry. 2 please. Here you are. We like this menu.
4	●わが家のおすすめメニューを紹介しよう。 ○発表会でプレゼンテーションをする。 ○発表会での練習をする。	●わが家のおすすめメニューを紹介しよう。 ○発表会でプレゼンテーションをする。 ○発表会での練習をする。	

【知識・技能】 食材の言い方や、欲しい物を尋ねたり要求したりする表現を理解することができる。
【思考・判断力・表現力】 欲しい食材などを尋ねたり要求したり、考えたメニューを紹介することができる。
【学びに向かう力・人間性】 相手に配慮しながら自分のオリジナルメニューを紹介しようとしている。

(3) 1 単位時間の授業づくり

① 時間の構造化

4 5分を5つに分け、時間の構造化を図る。また、それをホワイトボードの授業のメニューとして示し、児童も授業者である担任も本時がどのように授業が進むのか見通しを持って、授業に取り組めるようにする。

3と4の **Activity1** と **2** には、活動内容をカードの下にペンで記載し具体的な活動内容が分かるようにする。

1の **Greetings** のあとに、今日のメニューを確認して授業を始めていく。また、今どこの学習中かが分かるように、印を動かしながら授業を進める。



全ての教科で使用しているメニューボードを英語科でも使用する。

② 仮説に沿った授業の組立

時間の構造化を図った学習活動を仮説1と仮説2に沿って組み立てる。

授業の前半の **2 Chants (Sing)** と **3 Activity1** では、本時に身に付けたい単語や表現の音声十分に慣れ親しませる活動を取り入れ、児童が自信を持って主活動である **Activity2** でコミュニケーションを図ることができるようにする。

後半の **4 Activity2** では、繰り返し練習した本時の単語や表現を用いて、友達と主体的にコミュニケーションを図る実践的な場とする。 **5 Look back** では、本時の中で分かったこと、できるようになったことを確認する場とする。

過程	学習活動
お さえる	1 Greetings えがおであいさつをして、単元のゴールを受けてからのToday's goalの確認をする
ざ いりょうをそろえる	2 Chants 本時に身に付けたい単語や表現、既習事項をリズムにのって反復練習 3 Activity1 カードゲームやワークシートを用いてペアやグループで練習
か んがえる	4 Activity2 練習したことを生かして友達と主体的にコミュニケーションを図れるような場
ま とめる	5 Look back 本時の中で分かったこと、できるようになったことを伝え合う



仮説2
音声十分に慣れ親しませれば、児童が自信を持ってコミュニケーションを図ることができるだろう。

仮説1
必然性を持たせ、「意味のある交流の場」を設定すれば、児童自らコミュニケーションを図ることができるだろう。

①②③④⑤の「小坂型授業」の過程に合わせて学習活動を組み立てる。

学習活動を仮説1と2に分けて組み立てる。

2 コミュニケーション活動の充実

(1) 楽しさや達成感を味わうことができる場面設定

① 興味・関心を高める場面設定

児童の実態に応じて、実生活と関連のあることや他教科との関連を図り、児童が興味・関心を高められるような場面設定をする。

② 必然性のある意味のあるやり取り

「人気のあるものは何だろう。」「自分と同じ〇〇な友達を見つけよう」など発見のある、自分の思いを伝えたい主活動を設定する。本時に身に付けたい単語や表現を用いて、「尋ねて調べたい。」「見つけたい。」など児童が友達とのやり取りに必然性を持たせられるような場面設定をする。

(2) 振り返り

① 学びの確認

振り返りシートでは、「楽しく」、「分かる」、「できる」の3項目で「とてもよくできた◎、できた○、もう少し△」の3段階で自己評価し、本時のめあてが達成できたかどうか、他の児童と伝え合いながら、学びの確認を図る。

1月 日	★めあて☆ どこの場所かジェスチャーゲームしよう
①楽しく、積極的に学習できましたか。	◎ ○ △
②今日の学習のめあてが達成できましたか。	◎ ○ △
③人の話をよく聞いたり、英語を使って話したりすることができましたか。	◎ ○ △
2 <わかったこと、できるようになったこと>	
★友だちの良かったところなど	今日、できたコミュニケーションポイント! 

② 自己評価と肯定的な相互評価

自分の振り返りとともに、「友達の良かったところ」を書く欄を設けた。友達の良いところを見つけながら、自分をさらに振り返ったり、伝え合ったりすることで互いに認め合い、よりよい人間関係の構築や支持的風土のある学級づくりを図る。

児童の振り返りシート
 上段に「分かったこと、できるようになったこと」を書く欄を設ける。
 下段に「友達の良かったところなど」を書く欄を設ける。

IV 研究の実際

1 Let's play cards. 好きな遊びを伝えよう

(1) 単元について

① 目標

- ・世界の遊びと日本の遊びの違いを通して、多様な考え方があることに気付く。
- ・天気に応じた遊びなどについて尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・相手の話に感想の言葉を加えて聞く。
- ・相手に配慮しながら相手の話に感想の言葉を加えて聞こうとする。

② 単元のゴール

『天気によって遊ぶ遊びを提案しよう』

(設定理由)

天気に応じた遊びなどについて尋ねたり答えたりすることを目標としている。
『天気によって遊ぶ遊びを提案しよう』を単元のゴールとすることで晴れの日・雨の日に友達と遊びたい遊びとそのルールなど発表することで児童への意欲付けになるだろうと単元のゴールを設定した。

③ 単元計画の作成

時	単元計画	Today's goal
1	おさえる 単元末の姿と単元計画について知る。	単元のゴールを知ろう 今日はどんな天気か言い合おう
	ざいりょうをそろえる 単元末でのゴールを達成するために必要な単語と表現に慣れ親しむ。	
2	・天気の言い方	世界にはどんな遊びがあるのか調べよう
3	・遊びの言い方 ・遊びに誘ったり答えたりする言い方	4-1のみんなが好きな遊びを調べよう
4	かんがえる	遊びに誘ったり答えたりしよう
5	相手意識をもって慣れ親しんだ表現を用いて	遊びのルールを考えよう
6	コミュニケーションを図る活動 ・自分で考えた遊びの中で何が人気があるのかを調べる。 ・自分が決めた遊びを誘う言い方を練習する。	発表の準備と練習をしよう
7	まとめる	遊びを提案しよう
8	・プレゼンテーションによる発表	友達の遊びの提案に答えよう

(2) 授業の様子

① 本時(4/8)の目標

自分で考えた遊びに誘ったり、答えたりすることができる。

② 展開

学習活動	教師の発問や指示 (T) ・ 児童の反応 (C)
<p>おさえる Greetings</p>	<p>T) Hello, everyone. How are you? Please greet each other.</p>  <p>C1) Hello. How is the weather today?</p> <p>C2) It's sunny.</p>
<p>ざいりょうを そろえる Chants</p> <p>Activity1 すごろく Game</p>	<p>T) Let's chant. Repeat after me. Let's play relay. Let's play dodgeball.</p> <p>仮説2 「Let's play 遊び」の表現を 繰り返し練習する。</p> <p>T) Let's play すごろく game. Look at the demonstration.</p>  <p>仮説2 アクティビティ2で扱う表現のやりとりに慣れ親しませるために、グループですごろくゲームに取り組む。 ○こまを動かす児童 「Let's play cards game.」 ○周りの児童 「OK.」「I'm sorry.」等</p>
<p>かんがえる Activity2 インタビュー</p>	<p>T) Let's play 指令 game. Make pairs. Look at the demonstration.</p>  <p>C1) Let's play baseball.</p> <p>C2) Yes. Sure.</p> <p>C1) Let's play basketball.</p> <p>C2) I'm sorry.</p> <p>仮説1 グループでどの遊びを提案するのか2つに絞る。 そのどちらがこの学級では人気があるのかを誘ってみて、提案する遊びを決める。</p>
<p>まとめる Look back</p>	<p>T) 遊びに誘ったり答えたりすることができましたか。</p> <p>C) 英語でリレーに誘うことができよかったです。</p>

2 Do you have a pen? おすすめの道具箱をつくろう

(1) 単元について

① 目標

- ・文房具など学校で使う物や、持ち物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・文房具などの持ち物について尋ねたり答えたりして伝え合う。
- ・相手に配慮しながら文房具などの持ち物について尋ねたり答えたりしようとする。

② 単元のゴールの設定

『オリジナルの道具箱を作って紹介し合おう』

(設定理由)

本学級の児童は文房具がとても好きなので、新しく覚える文房具の単語と既習事項の色を合わせてオリジナルの道具箱を作って紹介することをゴールとすれば児童への意欲付けになるだろうと単元のゴールを設定した。

③ 単元計画の作成

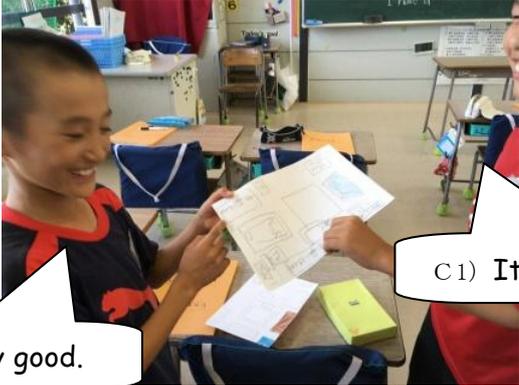
時	単元計画	Today's goal
1	おさえる 単元末の姿と単元計画について知る。	単元のゴールを知ろう 文房具の言い方を知ろう
2	ざいりょうをそろえる 単元末でのゴールを達成するために必要な単語と表現に慣れ親しむ。	持っていますか？ゲームをしよう
3	・文房具の言い方 ・「持っていますか。」の誘い方 ・部屋の中、身の回りの物の言い方	部屋の中にある身の回りの物の言い方を知ろう
4	かんがえる 相手意識をもって慣れ親しんだ表現を用いてコミュニケーションを図る活動	オリジナル道具箱の入れる物の買い物をしよう
5	友達部屋には何があるか聞き合おう	
6	・道具箱の中身をそろえるための買い物ごっこをする。 ・自分の部屋や道具箱の紹介の仕方の練習をする。	オリジナル道具箱の発表練習をしよう
7	まとめる	オリジナル道具箱を紹介し合おう
8	・プレゼンテーションによる発表 ・外国の文房具について調べる。	外国の文房具はどんなものがあるか調べよう

(2) 授業の様子

① 本時（7/8）の目標

自分のオリジナル道具箱を紹介する。

② 展開

学習活動	教師の発問や指示 (T) ・児童の反応 (C)
<p>おさえる Greetings</p>	<p>T) Hello, everyone. How are you? Let's greet each other.</p>
<p>ざいりょうを そろえる Chants</p> <p>Activity1 Pair practice</p>	<p>T) Let's chant. It's my original box. I have a red pen. I have a green sharpener. I have a ~ ~.</p> <p>仮説2 発表する内容を順番通りに繰り返し練習する。</p> <p>T) Let's practice with pairs.</p>  <p>仮説2 ペアで練習をして、自信をつける。</p> <p>C1) It's my original room.</p> <p>C2) Really? Very good.</p>
<p>かながえる Activity2 紹介し合おう</p>	<p>T) Let's introduce each other.</p>  <p>仮説1 オリジナル道具箱を紹介し合い、感想を伝える。</p> <p>C3) I have a pink sticker. I have a blue glue. I have a ~ ~.</p> <p>C4) I see. It's nice.</p>
<p>まとめ Look back</p>	<p>T) オリジナル道具箱を友達に紹介することができましたか。</p> <p>C) 少し言い間違っただけど、最後まで言えてよかったです。</p>

(3) 振り返り

① 仮説の検証

仮説 1	必然性を持たせ、「意味のある交流の場」を設定すれば、児童自らコミュニケーションを図ることができるだろう。
------	--

【児童の興味・関心を高める場面設定】

- ・単元のゴール『オリジナルの道具箱を作って紹介し合おう』で、普段から好きな文房具と道具箱を作ることを目的としたため、とても楽しんでコミュニケーションを図ることができた。

【必然性のある意味のあるやり取り】

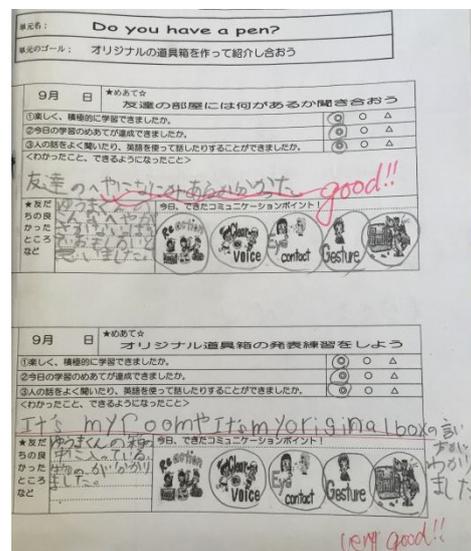
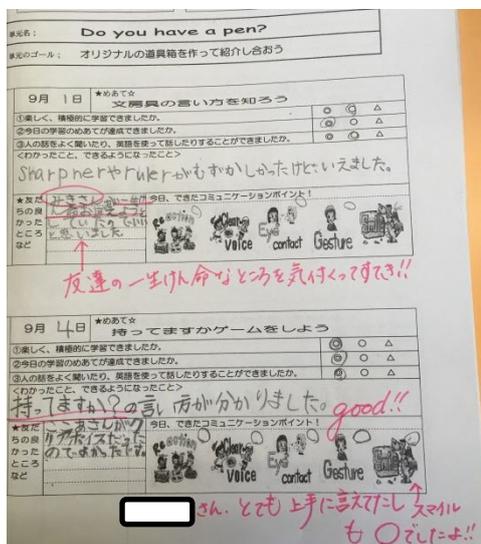
- ・「Do you have a pen?」「I have a pen.」の表現を覚えるために、自分の欲しい文房具をそろえる『買い物ごっこ』の場にしたことで、楽しく積極的にコミュニケーションを図る児童が多かった。

仮説 2	音声十分に慣れ親しませれば、児童が自信を持ってコミュニケーションを図ることができるだろう。
------	---

- ・クラッシュゲームやカードゲームで繰り返し言わせたりすることで文房具の単語を覚えることができた。
- ・すごろくゲームの「持っていますか？」の表現を使う場で練習を繰り返すことで自信を持って主活動で言える児童が多かった。

② 振り返りシート

- ・ sharpener や ruler が難しかったけど、言えました。
- ・持っていますか？の言い方が分かりました。
- ・〇〇さんがアイコンタクトで言っていていいと思いました。



3 What do you want? ほしい物は何かな

(1) 単元について

① 目標

- ・食材の言い方や欲しい物を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。
- ・欲しい食材などを尋ねたり、要求したり、考えたメニューを紹介する。
- ・相手に配慮しながら自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。

② 単元のゴールの設定

『わが家のおすすめオリジナルメニューを紹介しよう』

(設定理由)

自分で考えるオリジナルメニューを紹介することが目標になっているので、自分の家族に目を向けさせ、家族みんなが好きな『わが家のおすすめオリジナルメニュー』を紹介することを単元のゴールとすることで児童への意欲付けになるだろうと単元のゴールを設定した。

③ 単元計画の作成

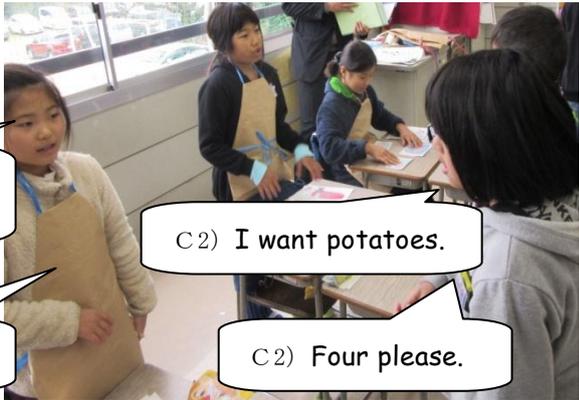
時	単元計画	Today's goal
1	おさえる 単元末の姿と単元計画について知る。	単元のゴールを知る。 メニューの言い方を知ろう
	ざいりょうをそろえる	
2	単元末でのゴールを達成するために必要な単語と	食材の言い方を知ろう
3	表現に慣れ親しむ。	何が欲しいかたずね合おう
4	・メニューの言い方 ・食材の言い方 ・「何が欲しいですか。」の言い方	自分に必要な食材の言い方を知ろう
5	かみがえる 相手意識をもって慣れ親しんだ表現を用いてコミ	お店役とお客役で欲しい物を尋ね合おう
6	ュニケーションを図る活動	メニュー紹介の言い方を知ろう
7	・。 ・自分の部屋や道具箱の紹介の仕方の練習をする。	発表会の練習をしよう
8	まとめる ・プレゼンテーションによる発表	おすすめオリジナルメニューを紹介しよう

(2) 授業の様子

① 本時 (5 / 8) の目標

欲しい食材や個数を要求したり尋ねたりすることができる。

② 展開

学習活動	教師の発問や指示 (T) ・児童の反応 (C)
<p>おさえる Greetings</p>	<p>T) Hello, everyone. How are you? Look at the demonstration. A) I have no carrots and no potatoes. B) What do you want? A) I want carrots.</p> 
<p>ざいりょうを そろえる Chants</p> <p>Activity1 Dice Game</p>	<p>T) Let's chant. Repeat after me. What do you want? I want carrots.</p> <p>T) Let's play dice game. Look at the demonstration.</p>  <p>仮説 2 「What do you want?」の表現を繰り返し練習する。</p> <p>仮説 2 アクティビティ 2 で店員と客のやり取りに慣れ親しませるために、グループですごろくゲームを取り組む。 ○周りの児童 「What do you want?」 ○こまを進めた児童 「I want (その目の食材).」</p>
<p>かながえる Activity2 買い物ごっこ</p> <p>C1) What do you want? C1) How many? C2) I want potatoes. C2) Four please.</p>	<p>T) Let's play 指令 game. Make pairs. Look at the demonstration.</p>  <p>仮説 1 店役、客役に分かれ買い物ごっこをする。店員役はエプロンを着け、客役は自分のメニューに必要な物と個数を買求める場を設定する。</p>
<p>まとめ Look back</p>	<p>T) 店員で欲しい物を尋ねたり、客役で欲しい物を要求したりすることはできましたか。</p> <p>C) ジェスチャーをつけて、欲しい物は何ですか? と尋ねることができました。</p>

(3) 振り返り

① 仮説の検証

仮説 1	必然性を持たせ、「意味のある交流の場」を設定すれば、児童自らコミュニケーションを図ることができるだろう。
------	--

【児童の興味・関心を高める場面設定】

- ・単元のゴール「わが家のオリジナルメニューを紹介しよう」を達成するために、毎時間の流れを押さえることで児童の意欲を高めることができた。
- ・みんなの前で発表するための絵などを準備することで、それを見ながらメニューや食材を伝え合うことができた。

【必然性のある意味のあるやり取り】

- ・与えられたメニューや食材を調達させる指令ゲームを設定することで、食材を要求したり尋ねたりする表現を使わせる。
- ・家族の人数分の食材の分量を考えて買い物させる場（お店やさんごっこ）を設定することで、自分の役割に応じた表現を使わせる。

仮説 2	音声十分に慣れ親しませれば、児童が自信を持ってコミュニケーションを図ることができるだろう。
------	---

- ・スラップゲームで、単語や表現を繰り返し聞かせたことで覚えることができた。
- ・クラッシュゲームで、メニューや食材を繰り返し発話させたことで覚えることができた。
- ・グループでのすごろくゲームで、お客と店員の会話文に慣れ親しませたことで、アクティビティ 2 で自分のメニューに必要な物を買求めることができた。

② 振り返りシート

- ・I want を I like とまちがえないようにしたいと思った。
- ・買うときや売るときにジェスチャーを使うことができたから良かった。
- ・〇〇さんがスマイルで話してしたのでまねしたいと思いました。

11月9日 ★めあて☆
指令された食材をゲットしよう

①楽しく、積極的に学習できましたか。 ○
②今日の学習のめあてが達成できましたか。 ○
③人の話をよく聞いたり、英語を使って話したりすることができましたか。 ○
くわかったこと、できるようになったこと>

I want を I like とまちがえないよ

★友だちの良かったところなど。 アイスクリームを売るときにスマイルで話していたからまねしたい!

今日、できたコミュニケーションポイント!
Voice contact Ge

また何回も練習に自信がわいてきた!!

What do you want?
単元のゴール: わが家のおすすめメニューを紹介しよう

11月17日 ★めあて☆
自分のメニューに足りないものを買ったり売ったりしよう

①楽しく、積極的に学習できましたか。 ○
②今日の学習のめあてが達成できましたか。 ○
③人の話をよく聞いたり、英語を使って話したりすることができましたか。 ○
くわかったこと、できるようになったこと>

買うときや売るときにジェスチャーを使ったから良かった

★友だちの良かったところなど。 アイスクリームを売るときにスマイルで話していたからまねしたい!

今日、できたコミュニケーションポイント!
Voice contact Gesture

Wonderful!!

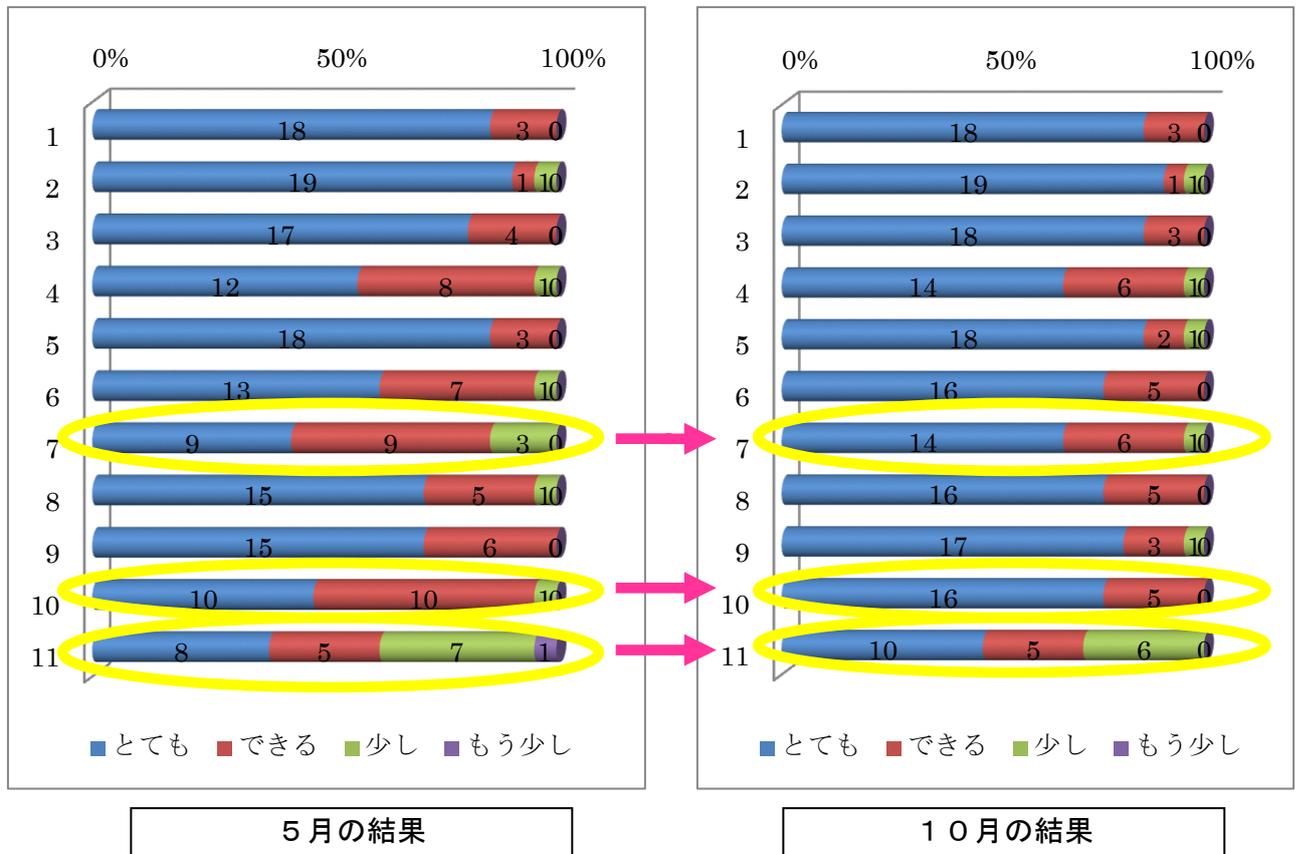
V 研究のまとめ

1 成果

(1) 児童の意識調査より

5月と10月に同じ内容で意識調査を行った。次のような結果となった。

1	英語学習に進んで参加していますか。
2	英語が話せるようになりたいですか。
3	日本や外国の言葉・くらしについて、もっと知りたいと思いますか。
4	英語の授業のはじめに先生が出す「めあて」をいつも考えながらがんばっていますか。
5	相手を見て話したり聞いたりしていますか。(アイコンタクト)
6	相手に伝えようと、大きな声ではっきりした発音を心がけていますか。(クリア)
7	必要なときは身振りをつけて、わかりやすく話していますか。(ジェスチャー)
8	先生や友達の話聞き、リクエスト(うなずく、返しの言葉)ができますか。
9	相手がわかっているか確かめながら話していますか。
10	先生が英語で言っていることが分かりますか。
11	英語以外の時間でどのくらい英語を使っていますか。



項目7「必要なときは身振りをつけて、わかりやすく話していますか。(ジェスチャー)」において、5月では「とても使っている」と回答した児童が9人だったのが、14人まで増

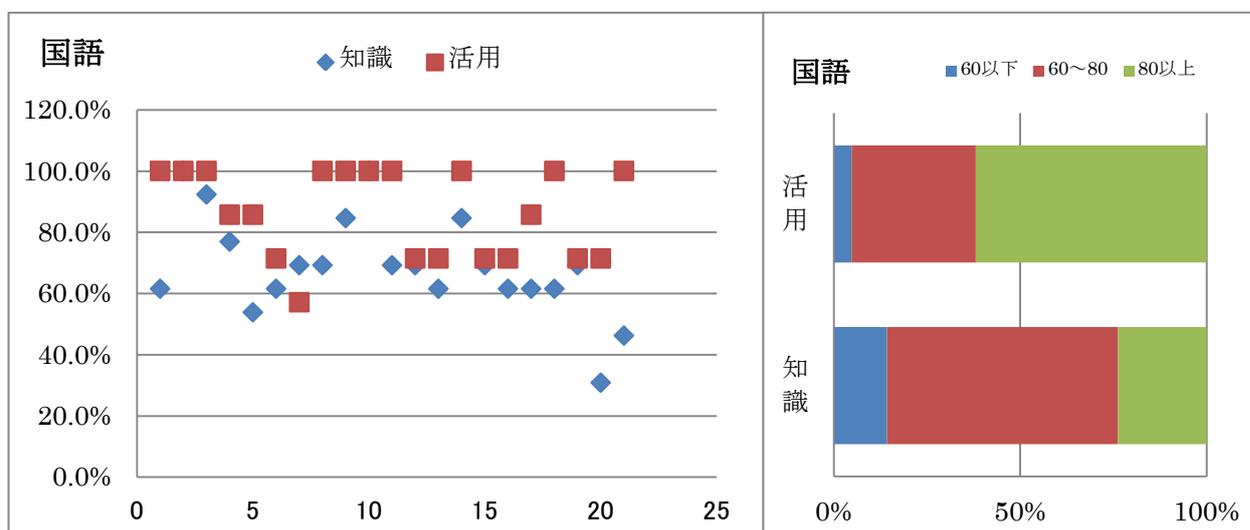
えている。これは、単元の導入で担任による単元のゴールを知る際に単語や表現の言葉や意味は分からなくても、ジェスチャーがあるから分かったという子がとても増えた。授業中にも単語や表現を忘れたときでも有効なコミュニケーションツールとしてもジェスチャーを示したこともあり、どんなときにもジェスチャーをつける児童が増えてきたように考える。

項目10「先生が英語で言っていることが分かりますか。」において、5月では「先生の言っていることが早くて分からないことがある。」と理由として挙げていた児童が多かったが、「先生がジェスチャーを使って話すから分かるようになった。」「いつも言う言葉だから分かるようになった。」などを理由として挙げ、全体的に「分かった」という児童の割合が増えた。

項目11「英語以外の時間でどのくらい英語を使っていますか。」において、5月では、「少し」「ほとんど使わない」と8名の児童が回答していたが、10月では6名に減った。授業以外の時間でも使うことが多くなったと回答する児童の理由として、「他の教科のときも『good job.』『Me, too.』と言うことがある。」「休み時間とかに『Hello』と言ったりする。」を挙げた。

また、項目8「先生や友達の話聞き、リアクションができますか。」は5月、10月ともに高い数値の結果だった。この英語の時間に身に付けたリアクションが他教科等で多く見られるようになった。

(2) 熊本県学力調査の結果より



上のグラフは12月に行った熊本県学力調査の国語の結果(21名実施)である。この結果から21名中20名が「知識」より「活用」の方で高い割合で正答していることが分かる。問題を見ると、「自分がその場にいたらどのように伝えるか(話す・書く)」などにおいて高い割合で正答しているのが分かる。英語科で目指してきた「豊かなコミュニケーション力を身に付ける」ことが達成に近づいてきたことによって、国語科においてもコミュニケーション力を定着させることができた。

(3) 保護者の協力と理解

保護者には、英語科の学習の様子を単元毎に通信でお知らせしてきた。授業参観のときに参加型の参観で協力をしてもらうこともあった。

また、11月の実践「What do you want?」では、『わが家のおすすめメニューを紹介しよう』ということもあり、家庭学習と連携して行った。単元のゴールとして授業で発表したことを家庭で感想をもらおうと、とても好意的な感想が多く、児童の次への意欲につながった。

The image shows three examples of student worksheets for the activity 'What do you want?'. Each worksheet has three sections: '1. わが家のおすすめメニュー' (My family's recommended menu), '2. 発表後の自分の感想' (My feelings after presenting), and '3. おうちの人の感想' (My family's feelings).
- The first worksheet has 'ぶたじる' (Butajiru) written in the first section. The second section contains the Japanese text: 'うまくはなせてお母さんや兄ちゃんにほめられたのでよかったです。' (I was able to talk well and was praised by my mother and brother, so I was happy). The third section contains the Japanese text: 'とても上手に英語が話せていいね。よくがんばりました。すごい!' (You spoke English so well, that's great. You did really well. Amazing!).
- The second worksheet has '親子丼' (Onigiri) written in the first section. The second section contains the Japanese text: '初めの言い方をわすれていたけどI have We like this menuはきさんと話して良かったです' (I forgot the first way of saying it, but I have We like this menu after talking with Kisan, it was good). The third section contains the Japanese text: '親子丼を作るのに必要な材料が分かりやすく good!!' (The materials needed to make Onigiri are easy to understand, good!!).
- The third worksheet has 'シチュー' (Stew) written in the first section. The second section contains the Japanese text: 'クイズでいえたから良かったです。' (I was able to do the quiz, so it was good). The third section contains the Japanese text: '会話の中から楽しく英語を学ぶことができます。' (We can learn English happily from conversations).

とても上手に英語で話せていました。よくがんばりました。すごい!

親子丼を作るのに必要な材料が分かりやすく good!

会話の中から楽しく英語を学ぶことができます。

2 課題と今後の展望

本学級の児童は、英語科の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし、時間がたつと単語や表現を忘れていくことが多いことが分かる。その単元の時間のときには、繰り返し練習するのでとても上手に発話できているが、次の単元になると全く扱わない単語などが多くあり、忘れてしまっていることが児童との会話から分かる。

今後は、単元計画を立てる際に、既習事項を意図的に入れていく必要があると感じた。高学年、中学校と扱う単語や表現が難しくなったり、「読む」「書く」の領域が加わっても、現在の英語教育への高い関心・意欲が持続できたりするような授業づくりをする必要があると考える。

おわりに

昨年度から文部科学省「教育課程特例校(英語教育)」の指定を受け、「授業のUD」に基づいた英語学習に取り組んでいる。児童の学力向上に向けてはもちろんだが、児童が『楽しく』学習するための工夫が必要であり、そのために授業づくりにおいて、どのような工夫をすればいいのかを授業のUDの観点から行ってきた。児童の実態に応じて、個別支援の工夫と同時に、全ての児童の学習意欲を高めるための方向性も見えてきたように思う。

来年度は、さらに充実した実践につながる年と考える。御指導・御鞭撻を賜りたいと念ずるところである。

参考文献

- ・ 小学校学習指導要領解説 外国語活動編 (文部科学省)
- ・ 授業のユニバーサルデザインVO1. 11 (東洋館出版社)
- ・ 子どもが楽しむ英語活動3 (日本標準)
- ・ 子どもが楽しむ英語活動4 (日本標準)
- ・ 小学英語絵カードプリント1400 (学研)
- ・ 小学校英語活動 児童用絵カード 活動案集 (学研)